

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
地域福祉の理論と方法Ⅱ Community Development Ⅱ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
山田 昇	本館2F	授業時に説明します。		授業中に指示します
授業の概要				
本科目では、地域福祉の理論と方法Ⅰ（前期科目）をもとに、地域福祉に係る法や制度・地域福祉計画、関連機関や団体、専門機関や担い手等について学習する。また、居住地域の福祉活動を調べ、他地域との同異点から地域特性を把握することの重要性を学ぶ。				
授業の目標				
①地域福祉に関わる法や制度を理解し、地域福祉計画の重要性を説明できるようにする。 ②社会資源の種類と活動内容を説明できるようにする。 ③地域福祉活動の方法を説明できるようにする。 ④居住地域の福祉活動を把握し、地域特性を習得できるようにする。				
授業の方法				
講義中心であるが、資料や視聴覚教材、個人ワーク等も取り入れる。グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。またほぼ毎回の授業において小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行い、知識の定着を図る。				
学習の成果（学習成果）				
地域福祉について地域福祉計画をもとに、地域特性に応じた活動について分析することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって） 家族介護の問題点			
第2回目	専門職の役割（社会福祉士、介護支援専門員、地域福祉コーディネーター等）と法律			
第3回目	ケアマネジメントの仕組みと活動			
第4回目	在宅サービスと施設サービス			
第5回目	予防のためのサービスと活動			
第6回目	ソーシャルサポートネットワーク			

第7回目	権利擁護のためのサービス活動	
第8回目	インフォーマルサービスと当事者活動	
第9回目	地域福祉と環境改善サービス	
第10回目	地域福祉とNPO活動	
第11回目	当事者団体・セルフヘルプグループ・ボランティアコーディネート	
第12回目	住民参加型在宅福祉サービス 小テスト	
第13回目	福祉教育 小テスト	
第14回目	社会福祉協議会	
第15回目	まとめ（地域福祉に関する法制度や諸機関を踏まえて地域福祉計画概観する）	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト	10%	第8回目の授業において小テストを行う。ほぼすべての授業にリアクションペーパーを行う。このことにより学びの振り返りができる。求められたテーマについて自分の考えを明確にすることが出来る。
試験	60%	論述、選択記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
『社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法』 第3版		
履修上の留意点・ルール		
社会福祉士国家試験受験資格取得の為に必修科目である。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		